

経営トップが「旗振り」「関与」し、モノサシを活用した例として、  
Youtube に公開されているインタビューを紹介します

「大阪信用金庫 樋野征治理事長に聞く」 Youtube 検索 (15分:2014年1月20日公開)

URL : <https://www.youtube.com/watch?v=FJQZO3bpHvM>

樋野理事長は現在は会長に就任、  
平成 27 年春に旭日小綬章を受章された方です。  
私どもは2018年1月、樋野会長ご本人と面会してきました。



職員に対しても、融資先に対しても、  
もちろん、ご家族にも、そしてご本人に対しても、  
非常に愛情に溢れた素敵なお方です。

以下、インタビュー要点：

(職員全員にメンタルヘルスマネジメント検定 受検義務)  
目に見えないところで変わってきている。

金融に関する仕事に関する研修当たり前、  
平成 19 年当時：精神面は二の次三の次であるが、将来的には重要だろう  
先駆者の視点で、メンタルヘルス対策を経営トップから人事部門へ実施指示

(動画収録 2014 年時点) 検定を受検義務することは、時代にマッチングしてきた  
うつ病、うつ病予備軍 10~20 名は潜在している  
誰でも悩みが付いて回る、仕事に影響、業績にも支障になる

組織として徹底して、  
「(うつに) ならないように」、  
「(うつに) なりそうになりかけたときに自分・上司・仲間が助けてあげられるように」

検定合格者：知識があるので、お客様、社内の相談に乗れる。

メンタルヘルス推進委員：部下の方々への目配り・気配り、浸透させる

(聞き手)

(情報過多の中、情報に振り回されて、人間を見るという事が出来なくなっている)

知らないより、多少知っている方が会社のレベルアップになるだろう

CSR のひとつになるだろう

パート社員も含めている、分け隔てなく

(聞き手)

(トップの方が見ている、安心)

誰しも、

家庭問題、夫婦問題、介護問題、子供の教育、DV を持っている

検定受検・合格することで、精神的な部分で心強くなることは事実。

要点、以上。

経営トップの関与と、検定というモノサシを活用して、全職員を守る取り組みです。

更に詳しくは、私どもが直接お聴きした内容を守秘義務の範囲内でお伝えする準備があります。是非、ご一報ください。

(参考)

メンタルヘルスマネジメント検定、企業の声に掲載

<https://www.mental-health.ne.jp/voice/> (ページ中段)

## 企業の生産性向上には人材の活性化が不可欠

樋野 征治 さん 大阪信用金庫 理事長



信用金庫は営利のみを目的とした企業ではありませんが、「中小金融の円滑をはかり、地区内産業経済の発展と一般大衆の繁栄に寄与する」という金庫の基本方針を実現するためには、企業として収益力を上げ、より良いサービスを顧客に提供し続けることが不可欠です。私は、金庫で働く役職員に常日頃から自らの使命を理解し、その職責を果たすことをお願いしていますが、経営者として実感することは、「企業の盛衰は人材で決まる」ということです。

言い古された言葉ですが、役職員が企業目的と自己実現に向けて、知恵を出し合い、汗を流して懸命に頑張れば自ずと企業の業績は向上すると確信しています。

当金庫では、大阪商工会議所の「メンタルヘルス・マネジメント検定試験」の全員受験、全員合格を義務付けています。受験勉強を通じて、メンタルヘルスの仕組みを理解することで心身の不調に陥ることなく、全役職員が前向きに生き生きと仕事に取り組んでくれることを願っています。

様々なストレス要因が渦巻く現代社会において、役職員のメンタルヘルスケアに配慮することは企業の責任でもあり、今後も「安心して仕事に取り組める職場環境」を整備することは重要な経営課題です。

私は経営者として、当金庫が永遠に地域に必要とされる金融機関になることを目指して、人材の活性化を図るべく、職員一人ひとりの心の健康に配慮した経営を実践したいと考えています。